

2009.4.2

第五章

ヒラメク☆アイデア環境

- アイデアがヒラメク環境を作る -

ミクル株式会社 福井直樹 著

1/23

『 ヒラメク☆アイデアがヒラメク環境 』 目次：

第五章	アイデアの環境（アイデアの土）	3
第1話	どんな時にヒラメクのか？	4
第2話	アイデアとリラックスの関係	5
第3話	脳を空けてみる	6
第4話	視界も遮る	7
第5話	アイデア会議	8
第6話	場所と環境を変える	9
第7話	三人寄れば文殊の知恵	10
第8話	アイデア会議は三人で	11
第9話	考えてもアイデアは出ない？	12
第10話	悩んでいてもアイデアは出ない	13
第11話	悩める時は複数のことが頭にある	14
第12話	ありのままを受け入れる	15
第13話	将来の良い状況をイメージする	16
第14話	頭を揺らがせる（池谷裕二氏）	17
第15話	旅行とヒラメキ	18
第16話	何故新しい所を歩くのか	19
第17話	風景のパターンマッチング処理	20
第18話	街で目にするものでヒラメク	21
第19話	サービス業からヒラメク	22
第20話	場所でヒラメク	23

第五章 アイデアの環境（アイデアの土）

アイデアの閃きにとっても重要なのが、環境です。この章では、アイデアを出しやすい脳の状態をご説明した上で、そういう脳を作りやすい環境とはどういうものか、普段から簡単に実践できるアイデア環境作りについてご紹介したいと思います。

※筆者からお知らせ

第 7 章イメージカを公開中ではありますが、本章についても同時公開させていただく運びとなりました。章を行き来して読みづらい点もあるかと思いますが、ぜひ、共に読み進めていただければ幸いです。

第1話 どんな時にヒラメクのか？

人からアイデアってどんな時に閃くのかと尋ねられることがあります。実際に思い起こしてみますと、仕事に追われている時よりもリラックスしている状態の方がアイデアが閃くことが多いのは間違いありません。

俳優やミュージシャンとしてだけでなく芸術性の高い写真家としても活躍する福山雅治氏も、あるテレビ番組で、メロディが閃くので洗濯機を回していたりといったふとした瞬間だとおっしゃっていました。また他にも、近年の行政で最も素晴らしいアイデアの一つだと思っています「構造改革特区」の構想は、ある財務省の若手官僚の方がお風呂に入っている時に閃いたそうです。

特区構想は本当に素晴らしいと思いますが、財務省の会議室で産まれたわけでは無いのです。

例えば、会社で考えますと、会議室では出ないのに同僚と飲みに行ったらアイデアが沸いたとか、喫煙ルームで閃いたといった経験をお持ちの方がいらっしゃるかと思います。

私の場合ですが、最も多いのはリラックスどころかぼ〜っと何かを見ている時、また、何かをしている時に突然閃くことも多々あります。他には人と話をしている時に思い付くことも多いのですが、話していると言いましても全く別の話をしている時です。また、最初にご紹介したように夢の中でというのは頻繁には起こりませんが時々あります。

少なくとも全てリラックス状態と言える状態の時ばかりです。

リラックス状態とアイデアの閃きには何か関係があるのでしょうか？

※次回は、リラックス状態とアイデアの閃きに、どのような関連性があるのかについて、ご説明したいと思います。

第2話 アイデアとリラックスの関係

アイデアは複数の事が勘違いなどによって結びついた状態なわけですから、何かに集中して取り組んでいるという状態では全く無関係なアイデアは沸きにくいわけです。ぼんやりとでいいので複数の事に意識が向いていて、それらの複数の意識に上手くフォーカスが当たることが重要でして、脳が多数の事を一度に処理しないといけないため、仕事を処理する上での頭の空き容量が必要です。

パソコンでも CPU の空き容量みたいな表示がありますが、50%を超えていたりするとパソコンが急に重くなることがあります。実はそれに似ていまして、あなたの脳もサクサク動く状態にしてあげないとアイデアは閃いて来ないのです。

例えば、電車の中では動くことができないため意識は視覚と聴覚に限定されます。また、ぼ~っとしている時というのは恐らくですが、電車や周りの人のおしゃべりの声も意識して聞いていないといったように、耳から入った情報もあまり真剣には処理していないかと思います。そして、ぼ~っとしているということは視覚の情報も完全にフォーカスが当たっていないかもしれません。ただ単に見えているものを「見えている」という状態で処理をしており、「見ようとしている」という意識があるわけでは無いのです。

つまり、こういった状態の時の脳は、ほぼ 100%空いているという状態なのです。その時に、普段から「考える」という習慣が付いていますと「考えてもいない」のに「考えている」状態が生まれやすくなっているためにアイデアが浮かびやすいわけです。

※次回は、脳が空いている状態を意図的に作り出す方法をご紹介します。

第3話 脳を空けてみる

前は、見ているようで見ていない、聞いているようで聞いていないといった、脳が空いている状態について少しお話ししました。アイデアを生む時の脳は、働いていないわけでは無いのだけれどもどこにもフォーカスが当たっていない時ということが重要です。それでは、意図的にそういった状態を作る方法について少しだけご紹介したいと思います。

会社のオフィスで仕事をしていますと、他の人のおしゃべりが気になったり、他の人の視線が気になったり、電話を取らないと行けなかったり、何かと注意を払うべきところがあったり、また、嫌でも目や耳から雑音が入ってくるものかと思います。いつ何時、誰かがしゃべり掛けてくるかも分かりません。そんな時に無視するわけにも行かないものですよね。

集中して勉強したり、仕事をこなそうという時は、会議室にこもってみたりして一人の時間を作るという対処法もあるかと思いますが、脳を空けるというのは何かに集中する行為とは異なります。

私が実践している方法をご紹介しますと、まずは自分のことを知らない人ばかりの場所、もしくは無視しても問題無い程度の人しかいない場所に行きます。恐らく他の人も自分にあまり気にしていないであろう空間であれば良いので、例えば頻繁に行くわけでは無いカフェといった所で十分です。可能であれば見知らぬ土地に行くのが良いでしょう。

そして、人の話し声や騒音が聞こえなければそのままでも良いのですが気になる場合は良く聞く音楽をヘッドフォンで聞きます。聴くのではなく「聞き」ます。何となく音楽は感じているんだけど歌詞やメロディーに完全に集中していない状況です。

※次回も、引き続き、脳を空ける方法についてご紹介します。

第4話 視界も遮る

更には、視界はある程度遮るかあまり動かない、又は動いていても興味を引くものでは無い程度の方向を向くようにしておきます。つばのある帽子 (CAP) をかぶって視界を遮るのもお勧めです。これはあくまで一部の視界を遮るだけで見えなくするわけではありませんし、目をつぶってもいけません。見ているのではなく、眺めているといった感じで特に何かに注意していない状況です。

服装もリラックスできるものが良いでしょうし、次の予定が気になったり、トイレに行きたいといった何かに意識が飛ばないようにして望むと効果的かと思います。

一人で行う時には取りかかる前からアイデアを出すことにだけ時間を何時間か取ろうと決めてしまって時計も見ない方が良いでしょう。時間の経過が余計なことを考えるきっかけになることもありますし、時間が経ったことで勝手に疲れたという思いをもたらすこともあるからです。

こういった状態を作れましたら今度は自分がアイデアの花を咲かせようと思っていることの内容に近いもの、できればあなたが収集しておいたアイデアの種を眺めるようにします。また、アイデアの種に関わるような資料であったり、自分で書き出しておいたメモや絵であったり、関連する書籍を少し眺めるのも良いでしょう。

そして何となくといった感じで良いですから心に残ったことや気になったことを箇条書きで良いので書き出して行きます。そういった作業を得た後で花を咲かせる方法を実践されるとより効果的です。

※次回は、アイデアを出しやすい環境について触れたいと思います。

第5話 アイデア会議

上司から無理矢理に会議室に詰め込まれてアイデアを捻り出せと言われても、先ほど説明させて頂いたように何かに集中した状態では出ないわけですから良いアイデアもなかなか出にくいかと思います。

そこで重要な会議などのために合宿を行っている会社も多いかと思います。

山に入ったり、海に行ったり、温泉があるところに行ったり、初日は宴会をしたりしてリラックスできる状態を作った上で二日目の朝から会議を行うなんてことが行われています。

毎日のように会社の会議室に閉じこもってミーティングを行うよりは、一回のこうした合宿の方がよっぽど効率的と言えるでしょう。

こういった、場所など環境を変えるということが良いのは、どの会社でも経験的に分かっているからこそ実施するのだと思います。

会社によっては会議室の色を変えて、話し合う内容によって利用する会議室を変えるということもしているようです。

また、クリエイティブな能力を必要とする業界ではオフィス自体もリラックスできる環境作りを重視しているようです。

例えば、Google inc.のようにそれぞれの社員に半個室を与え、好きなおもちゃを置いたり、好きな写真や絵を飾ったりしても良いというようにリラックス状態で仕事ができるといった工夫を行っているわけです。

個室も与えられないし、オフィスもグチャグチャだしという方には難しいかもしれませんが、何らかのクリエイティビティが求められる時は作業を行う環境を変えてみるのが良いかと思います。

※次回は、環境を変えたことによって生まれた良いアイデアの事例などを交えて、環境を変えることの重要性をお話します。

第6話 場所と環境を変える

アイデアが沸くようにするのは異なるのですが、私自身、本を執筆する時には海があるところに出向くことも多いです。

東京近辺では熱海や伊豆や八丈島、東京以外では鹿児島や沖縄、海外ではハワイやグアム、釜山といった感じです。

そこまでしなくても都内にある温泉に出向いたり、雰囲気の良いカフェに行ったり、はたまた人の多いファミレス系のお店などでパソコンに向かうのです。

私の会社では、全社員で高層階にある見晴らしの良いカフェで普段から仕事をしており、週に1回は都内の温泉施設を訪れ、月に1回は宿泊をかねて合宿を行っています。これは、リラックス状態を産み出すことが極めて重要だと位置づけているからです。

例えば、キリンビバレッジの「生茶」という非常に大ヒットしたペットボトル入りのお茶がありますが、そもそもの誕生は会議が行き詰まった後の居酒屋だったそうです。キリンは緑茶飲料で他社から遅れをとっておりヒット作が求められていた時の事です。

居酒屋といえはまずはということで注文した生ビールを見て「これだっ！」と閃いたそうです。ビールも生があるならお茶にも生があっていいんじゃないか？ というところから「生茶」のコンセプトが産まれてきたとか。

会議では恐らく出なかった「生」というコンセプトとネーミングは会議直後に出向いた居酒屋だったからこそ、それまでのコンセプト会議の脳みそと普段当たり前に目にしていた生ビールとを混同させ、会議を続けていたわけでもないのにコンセプトの勘違いが発生したところから新たなアイデアが産まれたわけです。

どうしてもアイデアが出ずにアイデア会議をされるのであれば、普通の会社の会議室ではなく、是非とも皆さんが最もリラックスできるであろう所で行われることをお勧めいたします。

※次回は、「アイデア会議に最適な人数は何人か」ということを考えてみたいと思います。

第7話 三人寄れば文殊の知恵

三人寄れば文殊の知恵という言葉聞いたことがあるかと思います。一人では解決されない問題も 3 人寄れば素晴らしい知恵が出るものだという意味でして、知恵という大切なものを昔の人も求めていたのだということが分かる言葉です。

さて、それでは何故三人寄ると知恵が出るのでしょうか？ 二人でも四人でも無く三人なののでしょうか？

これまで説明して参りましたようにアイデアの種も葉も花も一人の時の三倍になりますし、人の話を理解しようとしながら同時に自分の意見を言おうと考えをまとめたり、どうやって伝えるのが良いのかということを考えるということを行っているため、私が申し上げる二つ以上のことを同時に考え、勘違いを発生させるのに最善の環境になっています。

また、感情のイメージ法もお話しましたが、どのような三人が集まったとしましても物事を全く同じように捉える人はいません。つまり自分の意見を言った時に、他の二人はどう反応するだろうかといった風に、相手の気持ちを二人分イメージするということがまでも行っています。こっちからは同意されそうだけど、こっちからは反発があるだろうなといったように考えるのです。

それでは、三人では無く二人でも四人以上でも良いように思われるかもしれませんが、私は三人というメンバー構成はとても重要な最小且つ最大の構成では無いかと考えています。

※次回は、「三人」という数字の根拠についてご説明します。

第8話 アイデア会議は三人で

アイデアにはリラックス状態が必要であるというお話もさせて頂きましたが、まさにそれが関係してまして、三人というメンバー構成でアイデア会議をしたとしますと大抵の場合は二対一で座るかもしれませんが、私は三角形で座るようにしています。

人間は誰かと向かい合うと相手と対立しているという意識が勝手に生まれてくるそうです。三角形で座るとするのは、残りの二人が必ず平等に斜め方向に座わることを意味しています。二人だけの時も向かい合って座るよりも横に並んで座っていた方が何となく親密度が増し、リラックス状態になります。

四人以上の場合には必ず誰かと対立した形で座る必要がありますので、この関係は生まれず、唯一、三という構成の場合の時に可能な座り方なのです。どうしても大きな組織で人数が多くなる場合には3の倍数で分割して会議を行うのが望ましいです。例えば、6人で3人×2。9人で3人×3といった具合です。この理屈が正しければ、9人がベストかもしれません。三班に分けたチームの代表が新たに3人で会議を開けば最高の意見、アイデアが飛び出すのでは無いかと思います。

なお、大勢で一堂に会してアイデアを出すことも不可能では無いでしょうが、恐らくほとんどの場合は発言する人が少数に限られているでしょうし、効率よくアイデアを出すのは至難の業です。今、実際にやっておられてなかなかアイデアが出ないとお思いでしたら、まずは3人だけでアイデア会議を開いてみて頂ければと思います。

実は、この会議の3人ルールは自分の成功体験にも基づいています。私が1997年に初めて設立した会社のメンバーは3人でした。様々な意志決定が大変行いやすく、改めて考えますと、性格も異なる3タイプの間が会議を行った上で全員一致の意志決定方法をとるのが理想の意志決定体では無いかと感じたのでした。

現在のミクル株式会社も、設立は、その体験に基づきまして雑用担当なども採用せず、私を含めて重要なメンバー3名で行い、やはり大きく成功致しました。

つまり、アイデアだけでなく通常の会議にも非常に有効な会議運営の方法なので3の倍数での会議を是非実践されることをお勧め致します。

※次回は、アイデアが閃く時ってどんな時なのかということについてお話します。

第9話 考えてもアイデアは出ない？

今回、この本を執筆するに際しまして、たくさんの知人に「アイデアが閃く時」について伺って見ましたが、全員から共通して返ってきた回答が、アイデアはふとした瞬間に閃くことが多いというものでした。

何か一つを考えるとという行為は、何気なく行うことができるのは当たり前ですが、二つ以上のことを考えるとという行為は訓練しなければなかなかできるものではありません。

一度考えようと、考えるべき対象のことに頭の中がフォーカスを当ててしまうと、そのことだけがはっきりと見えてしまうため、アイデアが閃くのに大切な「勘違い」が発生しにくいわけです。

どれだけ脱線しても構わないので、アイデアを出そうと思いながら、周りの人とたわいもない会話をしている時の方がよっぽどアイデアは閃くものなのです。

アイデアが閃くように意識することを続けていくうちにこういったことが潜在意識の中にまで入り込めば、私のように夢の中だったり、先ほどのようにアイデアを出そうと思わなくても勝手に頭がアイデアというものを色々を見つけようと思いを巡らせるようになります。

人とおしゃべりしている時、お風呂に入っている時、新聞を読んでいる時、歩いている時、信号待ちをしている時、電車の中の広告を見ている時、車窓から風景を眺めている時、旅行でぼーっとしている時、食事をしている時など様々なシーンで様々なアイデアが勝手に浮かんで来ます。

アイデアの種を根気よく育て、アイデアの花を咲かせるところまでは水と光を与えてあげるといふ日々の継続作業が必要ですが、アイデアの実がなるのをただ単に待っているという感覚に近いです。

アイデアが閃くのは自分自身ですから考えていないわけでは無いのですが、頭の奥の方にいる脳には常に考えろと命令を出しているのかもしれないね。(笑)

※次回からは、少し脱線になりますが、「悩んでいる状態」から抜け出すためのアイデアについてお話して行きたいと思います。

第10話 悩んでいてもアイデアは出ない

アイデアとはちょっと意味合いが異なるかもしれませんが、私の周りにも「悩んでいる」人があまりにも多いので、それを解消するヒントとなればと思ひまして少し脱線してみたいと思います。

「あ〜、いいアイデアを思い付かないのかなあ。」そんな風に感じた経験は誰でもあるかと思ひます。

この場合のアイデアは、恐らく「悩みを解消するためのアイデア」を思い付こうとしているのだと思ひます。

悩むという行為をしている時のあなたの頭の中では、どういったことが行われているのでしょうか？

悩んでいるということは過去や現状に対して満たされない何かがあり、それを満足できる状態に移行させようとしても上手く行く手だてが無いということのはずです。

「悩む」ということは、それらに更に「自分」や「周りの人」や「周辺環境」に対して否定的な考えを付加して考えている行為です。

※次回は、悩んでいる時に取るべき行動についてのお話です。

第11話 悩んでる時は複数のことが頭にある

「悩む」という状況に至っているということは、恐らくは解決すべきだと感じていることが二つ以上発生していたり、三つ以上のことが複雑に絡み合っているということが少なく無いはずで。

あなたの脳はストレスを感じ、リラックスできる状態には到底なりません。そして、良い解決策が思い付かないと更に自分自身に不満を感じます。その悪循環が更に続くと「悩んでいる自分」に対してまでも「悩む」ようになるのです。

人に話している内にすっきりしたとか、良い解決策を思い付くという経験もお持ちかと思いますが、悩んでいる時ほど頭をリラックスさせてあげて下さい。

私は、いつも経験上のアドバイスをさせて頂く場合は、深呼吸してリラックスした状態で解決すべき問題点を文字にしてみても、まずはそのように考えている自分自身を「良い」も「悪い」もなく受け入れてあげるようにして、と言ってあげるようにしています。

例えば、「どうしても仕事に身が入らない」ということで悩んでいるとしますと、その仕事に身が入らない自分を悪いと思うことなく、仕事に身が入っていない自分をそのままあなた自身が受け入れてあげるわけです。

「そっか、身が入らないんだ」

→「だめじゃん」

→「ま、いっか」

の「だめ」「いい」といった良い、悪いの考えも無く、ありのまま「身が入らないんだ」とだけ受け入れるのです。

※次回は、自分自身を受け入れた後、その次の段階についてのお話です。

第12話 ありのままを受け入れる

前回は、悩んでいる状態をただ単にありのまま受け入れるという考え方を説明しました。これだけのことですが、あなた自身がこの受け入れてあげることが出来た瞬間に、少なくともこのことは悩みでは無くなります。

「今日は雨かあ」と考えているのと同じ状態です。「今日は雨かあ。嫌だなあ。」の「嫌だなあ」はあなたの主観の問題です。「雨」は「雨」だと単に受け止めるだけの話です。

「雨」が降ってるなら「今日はお洗濯をやめちゃおう。」とか「今日は久しぶりに貯まっていた DVD でも見よう。」といったように将来のことに対してフォーカスを当てやすくなります。

悩んでいるときは例えば「身が入っていない今の自分」にフォーカスが当たってしまい、将来の「身が入っている自分」にフォーカスすることが難しいのです。

「仕事をしたいと思っている自分」って、どのような状態だろうか？
「ワクワクしながらする仕事の仕方」って、どうしている時だろうか？
「やりたくなるような充実する仕事」って、どんな仕事だろうか？

今の状態から将来に対してのみフォーカスできるようあなたの気持ちをコントロールできるようになれば悩みの解決に一步近づきます。

※次回は、悩んでいる状態からの脱出方法について、私の経験談を交えてご紹介します。

第13話 将来の良い状況をイメージする

将来の良い状況をイメージできるようにさえなりますと、乗り越えなければならない現状にも耐えることもできるようになることでしょう。

そこまで「悩んでいる状態」から離れることができるのと根本的な問題の解決方法にも気づくかもしれません。

私は、悩んでいる人の頭の中をヒアリングしながら書き出してあげるといってお手伝いをするのですが、大抵のケースが既に答えを持っていたり、いくつも悩んでいると感じているのに問題の鍵（ポイント）は一つだけだったりします。

私はその鍵の存在に気づかせてあげたり、その一つだけの問題を見つけてあげたりするだけです。

後々紹介していきますが、アイデアマップとお悩みマップはほとんど同じようなものでして、図示してあげることで新たな発見があるのです。

最近では、人とおしゃべりしながら頭の中にある程度のお悩みマップが描けるようになってきましたので、頭の中だけで解決策を見つけることもできるようになって来ました。

これはアイデアを閃く時の頭の中の働きとほぼ似通っています。意識するかしないかに関わらず頭の中でアイデアマップを描いていて答えを導き出しているのです。

アイデアマップの描き方も含めて、この本を読んで訓練法を実践していくあなたは、悩みを乗り越える方法もアイデアで未来を切り開く方法も身につけているのです。きっと良い未来が待っているに違いありません。

※次回は、脳の海馬について研究をされている池谷裕二氏の理論をご紹介します。

第14話 頭を揺らがせる（池谷裕二氏）

海馬について研究をされている東京大学大学院准教授である池谷裕二（いけがやゆうじ）氏の理論も紹介したいと思います。

池谷氏によると、脳の神経の細胞の膜に貯まっているイオンが揺らぐことでアイデアが生まれる状況が作られるらしく、その良い揺らぎを産んでいるのが海馬なのです。

海馬は記憶を操るところと紹介したのですが、シータ波というリラックスした時に出るアルファ波とはまた違う脳波を発生させます。

シータ波は歩いたりする時に良く出ますが、特に初めての場所を歩く時にたくさん出ます。つまり外に注意を向け、興味を持って意識的に探索している状態、やる気のある状態を作ることが必要なのだそうです。

シータ波も出し方があるそうで、歩く、電車に乗る、飛行機に乗る、馬に乗る、トイレに行く、休憩コーナーに行くなど場所を変えると良いそうです。こういうことを、実際に脳波を測定して研究をされておられる方がいらっしゃるのに驚きました。

やっぱり毎日同じ職場だったり、会議室だったりしますと、アイデアが生まれやすい状況にはなっていないようです。

念のために断っておきますが、上記の状態はシータ波が出やすいというだけです。旅行などで折角新しい場所を歩いている時は、景色などを楽しむだけでなく、アイデアを閃かせようとしてみてはいかがでしょうか。

私が、実際に経験的に実践していたことが、脳の専門家から見ても正しいという結論に達しておられることを知り、とても驚きました。

※次回は、先ほど触れました「私が経験的に実践していたこと」について、具体的にご紹介します。

第15話 旅行とヒラメキ

私は頻繁に旅行をするようにしています。電車に乗ったり、自動車に乗ったり、飛行機に乗ったりする時には出来る限り新しいことを考えるようにしていて、それが効果的だということを知っています。新幹線でも長時間の飛行機でも寝るのはすごく勿体ないので普段のルーチンワークの事を一切忘れると共に文章を書いたり、創造的なことを考える時間に充てています。

また、旅行先では良く歩くようにしています。実際には新しい所を歩きつつも何度か同じ所を歩いている内に景色を見たり、物事を考える事に集中したり、意識を行ったり来たりさせます。何かをしている時に音楽を掛けていることはありませんか？音楽が耳から入っているんだけど何となくのリズムしか意識していなかったり、急に歌詞に意識が行ったりして、それが行ったり来たりの繰り返しになることがあると思います。

歩きながら物事を考えるというのは、この行ったり来たりの状態にとても似ています。

周りの人から見れば、何となく目の焦点が定まっていなくて怪しい人に映るかもしれませんがそんなことはお構いなしです。歩きながら考えるべきことを自分の声で自分の頭の中に問いかけてあげます。あなたの頭の中が既に持っている情報や答えを不思議と返してくれるということを経験されることと思います。

旅行に行かなくても普段とは違うルートを歩いてみてはいかがでしょうか。たくさん歩くことは健康にも良いですし、それでアイデアまで閃いたら一石二鳥ですね。

第16話 何故新しい所を歩くのか

新しい所を歩くとアイデアが生まれやすいという仕組みについては池谷氏が既に研究をされているかもしれませんが、私なりの考えで説明したいと思います。

人間の脳は自分の脳に蓄積されている情報（データベース）とのパターンマッチング処理を頻繁に行っています。食事の決定の仕方でも紹介した通りです。

また、新しい場所の風景、雰囲気、情報を海馬に蓄積すべきかを判断しつつ、もの凄い速度でデータを蓄積するという処理を行っています。何年か前に一度来た場所でも懐かしいと感じられるのは一度蓄積した映像を引き出しているからであり、自分で意識しないでも大量の情報をインプットしているのです。

ですが、全く同じ場所を何度も歩いている内に徐々にそのパターンマッチング処理すら脳が行わないようになっていきます。目から入った映像を情報として新しく処理するわけでは無くなっていくのです。普段、鍵を掛けた事かどうかといった全く同じ行動パターンをしている時には、その行動のことを数十分も覚えていないのと同じで、同じ場所を何度も歩く内に脳は働かなくなっているのです。

歩く時に普段と違うテーマで歩いてみなければ、新しい情報は入ってきません。例えば、「今日は和食系のお店を探してみよう」といった感じです。歩いている時に違う角度で周囲を見ると、意外と普段目に入ってこない情報がたくさんある事に気付かされます。

「あれ？ この店っていつからあったんだろう？」

一度、目から情報として蓄積しなかったものは同じ場所を同じように歩いても情報として処理しないのです。

今回は、新しい場所を歩く効果について、さらに深くご説明します。

第17話 風景のパターンマッチング処理

新しい場所を歩くと何故ヒラメクのかの続きです。

つまり、逆に考えると、新しい場所に行った時は自分がこれまで蓄積してきた風景とのパターンマッチング処理を行いながら、新しい情報についてどんどん書き込む処理を行っているはずで

見た風景、すれ違った人、通り過ぎるお店や建物の情報を、過去に記憶した内容から似たものをサーチしています。その工程の中で、過去の何十年もの蓄積の中から断片的に合致した映像を脳に引き出すと共に、新しく映像をインプットするという作業を行っています。

例えばですが、「この人って〇〇さんに似てるな。」とか「この人ってあのドラマの脇役の人に似てるな。」とか「海外にもこんなに日本と似たようなお店があるんだ。」とか「アメリカのマクドナルドってこんな感じなんだ。」といったように、海馬に蓄積された情報と比較するといったことを、あなたの頭は勝手に処理しているわけです。

このように、あなたが意識しているかは別として、頭が活性化している状態なのです。

アイデアもパターンマッチング処理から引き起こされる勘違いによっても閃きますので、そういった頭の状態の時に、様々なお題を与えてあげれば良いでしょう。

※ 次回からは、「お題作り」の具体例をご紹介します。

第18話 街で目にするものでヒラメク

例えば、街を歩いている時で説明してみましよう。

目にしたものを何でも勘違いさせていくのです。

①フリーペーパー

フリーペーパーが棚に積まれていたとします。

「インターネット版フリーペーパーってサイトがあるんだって。どんなサービス？」と自分にお題を投げかけます。それが本当にあるかどうかはどちらでも構いません。

②コンビニ

たくさんのコンビニエンスストアを目にする とします。

「インターネット版コンビニエンスストアサービスができたんだって。どんなサービス？」

③コーヒーショップ

様々なフランチャイズ展開されたコーヒーショップを目にする とします。

「インターネットの世界で成功しているフランチャイズビジネスがあるんだって。どんなビジネス？」

※次回は、サービス業の例です。

第19話 サービス業からヒラメク

④観光ガイド

「インターネットの世界をガイドするサービスができたんだって。どんなサービス？」

⑤親切な店員さん

「インターネットショッピングでも最近は店員さんがその場で対応してくれるらしいよ。それってどんなサービス？」

⑥自動販売機

「ホームページの一部を間借りして100円くらいの物を販売するビジネスが盛んなんだって。それって何を売ってるの？」

⑦便利屋さん

「最近だとインターネット上でも便利屋さんの利用が増えてるんだって。ネット上の便利屋さんって何を手伝ってくれるの？」

※次回は、場所から考えるお題をご紹介します上で、この章のまとめとさせていただきます。

第20話 場所でヒラメク

⑧銀座

「日本で一番地価が高いのは銀座だけど、同じことが最近インターネット上でも起きてるんだって。ネットなんて無限に場所がありそうだけど、どういった事が起きてるの？」

⑨ブランドショップ

「ネットサービスも今やブランドの時代。インターネット上での高級ブランド化ってどんなこと？」

何となく雰囲気は掴めましたでしょうか？

実際には、目にしたもので無くても問題ありません。そういったことを意図的に産み出すには、自分が発見したい内容、解決したい課題などをお題リストとして常備しておき、歩いている時に一つずつ眺めていくようにしてあげるといいわけです。

慣れない内はこういったお題を出すこと自体が、アイデアを閃かせることと同じぐらい難しいかもしれませんが、自分の頭の中だけでの話しですので恥ずかしがることもありませんし、誰もその出てきた答えの評価をするわけでもありません。

画期的なアイデアを閃めかせて突然大きな声を上げてしまう。なんて、経験を是非してもらいたいなと思います。思い付いた瞬間、誰かに電話でしゃべりたくなるってことは私の場合は頻繁にありまして、スタッフや家族に忘れない内に携帯で話すということが少なくありません。

アイデアと環境についてお話しして参りましたが、これでアイデア環境の章はおしまいです。環境を変えるということ自体は、誰にでも出来る簡単なことでもありますので、ぜひ、実践されてみてはいかがでしょうか。